

12月3日～9日 障害者週間 ……

障害のある人もない人も
お互いを理解し合いながら、
一緒に暮らす社会。
心のバリアフリー、
始めませんか。



ささこやまに住む佐藤秀之さん、中津鉄春さん、長谷川雅典さん(左から)。
仲間の伊藤清勝さんは、この日遅くまでお仕事でした。



最近では4人で旅行の計画をたてたりも。
「竹飛歩」のチームワークは抜群です



グループホームを支援する
「柳田新生寮」寮長の大川征郎さん(左)
と担当者の加賀谷巖さん

地域の理解と支援が 何よりの頼りです

グループホームでは、できるだけ普通の生活が送られるような環境を整えています。自立心を育むために、手助けも最小限にとどめ、自分一人で行うことはあまり口を出さないようにしています。障害のある人も自分の力で生活することは可能です。グループホームはそのための訓練、いわばひとつのステップなんです。そして、この訓練に不可欠なのは地域のみなさんの理解です。理解や支援があるからこそ、彼らも安心してのびのびと生活できます。あいさつをしたり、地域活動に参加したりすることによって、人と触れ合うこと、人とつきあう方法を自然に学んでいけるのではないのでしょうか。

グループホーム

社会的に自立するための ステップです

障害のある人たちが地域の中で自立して暮らすケースも増えていきます。

十月、広面にできた「ささこやま」は、障害のあるかたのためのグループホーム。グループホームというのは、数人の障害のあるかたがまちの中の一般住宅で、世話人の支援を受けながら共同生活をおくるものです。

市内で二番目となるこのホームには、現在四人が生活。知的障害者入所更生施設「柳田新生寮」の支援を受けながら、民間アパートを借りて住んでいます。四人は日中会社や施設で仕事をし、夜になるとホームに帰ってきます。朝食と夕食は、世話人の田村寿子さんが準備してくれますが、食器洗いや部屋の掃除、洗濯などは自分たちで行っています。

この前の休日には、地域との交流を

深めようと朝市を企画。柳田新生寮の畑で育てた新鮮な野菜を販売しました。「近所の人が声をかけてくれるようになってうれしい」と、ホームでの生活を楽しんでいる中津さん。長谷川さんは「勉強して調理師免許をとりたい」と目標もしっかり持っています。

昨年オープンし、一年を経過したグループホーム「竹飛歩(たけとんぼ)」の仲間も元気です。今も一年前と同じメンバーで、手形の一軒家に楽しく暮らしています。

「一年間の共同生活を通して、人に対する気遣いや思いやりが生まれました。大きな問題もなくホッとしています」と、運営をバックアップしている知的障害者通所更生施設「杉の木園」の澤田修明さん。世話人の三浦玲子さんも自分の家族のように接してくれています。障害のあるかたの新しい生活形態として始まったグループホーム。小さな支援で大きな成果が生まれています。